

16 地域療育支援室における発達障害児家族短期入所の実践

自立支援局秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 大野さち子 藤井知亨

1、はじめに

自立支援局秩父学園が今年度より実施している「発達障害児及び家族包括支援事業（家族短期入所）」は試行実施を経て、平成 24 年度予算概算要求において予算化された。本論では秩父学園地域支援課地域療育支援室の実践について述べる。

2、事業の概要

本事業の目的は自閉症及びその周辺領域の発達障害のあるお子さんの育ちとご家族による子育てを応援し、快適な地域生活をサポートすると共に、家族が適切な子育てをするきっかけや支援が進んでいない地域に対してサービスを提供すること等としている。対象児の年齢は 3 歳から就学前の児童、診断名を自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群、その他、発達が気になるなどの診断を受けた児童とし、対象地域を関東地域としている。児童指導員、OT、ST、心理療法士が分担して各対象児と各活動を担当し、実施内容は本人のアセスメントを中心とした療育、家族に対する療育相談・勉強会等を行う 3～5 日間程度の短期間の総合的療育を実施する。その後、評価した内容を対象児が在籍する関係機関に引き継ぎ、一貫した支援を実施することとしている。

3、事業の状況

利用者の概要として本年度の利用者は平成 24 年 10 月現在、合計 10 名である。年齢は 3 歳から 5 歳まで、主な診断名は広汎性発達障害であり、3 名が未診断であった。居住地域は埼玉県内 9 名、県外 1 名、保育所や幼稚園、児童発達支援を利用しながら医療機関等で ST や OT などの専門職から指導を受けている幼児が多数を占めた。家族の参加は「母のみ」が最も多く、次いで「両親」、「母と弟」という状況であった。利用者の主なニーズとしては、「身辺自立への対応」「コミュニケーション」であり、その他として「多動への対応」「ソーシャル・スキル」「視覚支援」など多岐に及んだ。

利用者に実施した事後アンケートでは「その子の親がどのような仕事をしていてどのように今まで取り組んでいるのか知った方がいいと思う」のように改善を求める感想がある一方で、「指導方法が適切であれば短時間でも成果が出るのがわかりました」「親が知りたかったことをこの 3 日間で得られたことは大きな収穫でした」など、プログラム内容に満足している感想が大多数となった。

4、おわりに

利用者の大半が日常的に地域の療育機関、ST・OT 等の専門職による療法を利用していたが、この事業の満足度は非常に高いものとなった。本人のアセスメントを中心とした療育、家族に対する療育相談・勉強会等を全て短期間に集中して実施するなど、本事業独自の取り組みが評価されたものであると考える。一方で、家族に関する情報収集や支援について、より一層の個別化された対応が求められることとなろう。また、より多くの利用者に本事業のサービスを提供していくための方略を検討することも今後の課題である。今後とも、家族の持つ潜在的ニーズを掘り起こしつつ、国立機関として、療育の「質」の向上に貢献するための方法を模索し続けることが重要であると考えられる。